

# アジア日本アジア

## 新たな関係を求めて

第2部 ⑨

「日本の医学のレベルは  
とっても高い。看護婦さん  
も親切です」

日本で学んだ後は欧米で 開設する夢があるからだ。  
生活する留学生が多い中、 その後ろだてになつたの  
シャフィックさんは迷わず は十四か国・地域の医師四

遣している国際協力団体で  
ある。代表の菅波茂さん  
（四さらの呼びかけで、AM  
D A会員や九州大の関係者  
らからベッド四十三床のほ  
か、内視鏡や超音波などの  
医療機器、パソコンなどが  
寄贈された。

この夏にできる夢の病院  
は、「ジャパーンバングラ  
デシュ・フレン  
ドシツプ病院」  
バンクラデシュ  
では医療費が極  
端に高く、一部  
の裕福な人しか  
治療を受けられ  
ない。そこで、  
貧しい人のため

人はその医療サービスを受  
けているのだろうか。中国  
語、タガログ語など七か国  
語で電話相談を受け付ける  
AMDA国際医療情報セン  
ター（東京）には切羽詰ま  
った声が毎月百件以上、寄  
国人が多い。病気になるつ  
も病院には行かず、売薬で  
済ませます。自分の国から取り  
寄せた薬、それも医師の処

方に必要な劇薬を勝手に飲  
み続ける。  
「それもこれも、外国人  
へのPRが足りないから」  
とセンター設立を提唱した  
医師、小林米幸さん（四三）  
アジヤ各国が学ぼうとし  
ている日本の高度医療。だ  
が、日本にいる外国人はそ  
の恩恵を共有していない。

この春、九州大大学院の  
博士課程を終えたバングラ  
デシュの麻酔科医ジュナイ  
・シャフィックさん（三三）  
は、ほめ言葉を残して帰国  
した。昨年、ムンニさん（三三）  
との間に生まれた娘に付け  
た名はティアシャー・アユ  
ミ。アユミにしたのは、日

故国に帰ることを決めた。  
百人が会員のAMDA（ア  
に週一回は無料で診察する  
こと）にしている。  
東京大と琉球大の大学院を  
シヤ医師連絡協議会、本部  
終えたタツカ医科大の同級  
・岡山市）カンボジアな  
シャフィックさんが絶賛  
した日本の医療。在日外国

本に感謝する気持ちを込め  
てのこと。日本の医療現場  
に五年間いて、感心するこ  
とばかりだったという。



「お金のかからない治療法を」と  
灸（きゅう）の仕方を学ぶシャフ  
ィックさん（左、福岡の病院で）